

令和３年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会 報 告 書



日時	令和３年 10 月 21 日（木）18：30～	
場所	文化会館	
参加者数	11 人	
市側出席者	市長	北 猛俊
	副市長	石井 隆
	教育長	近内 栄一
	総務部長	稲葉 武則
	スマートシティ戦略室長	西野 成紀
	市民生活部長	山下 俊明
	保健福祉部長	柿本 敦史
	経済部長	川上 勝義
	上下水道課長	北川 善人
	教育部長	亀淵 雅彦
	企画振興課長	関澤 博行

【市長 開会のあいさつ】

寒さも一段と厳しい時期になりました。足元が悪い中、地域懇談会にお集まりいただき、お礼を申し上げます。富良野市は、いまだ収束がなかなか見通せないコロナ禍の中にあり、市民の皆さんには不自由な生活を過ごしていると思っています。早く元の生活に戻り、新しい絆を作れるような、正常な状況に1日も早くなるよう願っています。コロナの関係は、北海道内の感染者が11名で、そのうち8名は札幌ということもあり、札幌も北海道内も感染が抑えられる状況になってきました。富良野市も大きなクラスターの発生もない状況で、10月1日に緊急事態宣言が解除されました。この後は、滞っている地域の絆やコミュニティを再生していく努力が始まると思っています。行政に対するご協力、地域作りにご尽力をお願いしたいと思います。

本日は意見交換ということで、地域の中で課題となっているような、次にどういう行動が取れるのかということで、良い取り組みをしている例、こんなことをしたいという意見交換もしたいと思います。未来をつくろうということで、総合計画を4月からスタートしています。テーマは美しいのその先へ、わがまち富良野で、10年後のあるべき富良野を思い浮かべながら、市民の皆さんと共に作り上げさせていただいた計画です。デジタルと共創を進めていくことになりますが、デジタルの部分は新たな公共交通ということで、乗り合いで乗り放題の提案を進めているところです。同時に、高齢者の見守りを音声認識ができる機器を配置して、言葉で意思疎通ができるシステムを利用しながら、高齢者の方々の見守りを進めます。一般的になりますが、キャッシュレスや利便性を上げるための企画も順次提案していきたいと思っています。デジタルの主体は市民の皆さんです。デジタルを活用して、より住みやすい富良野市を便利な社会を築いていくというのが大きな目標です。本日はテーマを設けないということです。どんなことでも忌憚のない意見交換をしたいと思いますので、ご協力をお願いします。

【懇談会の意見と回答】

交通安全

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○緑町に公園があるが、布部方面から来る車が高校の裏を走り北の峰に抜けていく。スピードをかなり出している車がある。公園で遊ぶ子供たちは注意しているが、弟や妹が後ろからついてきたときに車が止まることある。近所の人からも子供が引かれそうになっていると聞く。歩道は難しいと思うので何m先に公園があるとか、注意を促すような対策をしてほしい。 ○東小学校の北1号線に交通指導員が配置されるが、ハイツのところまでは道路が広いが、中富良野の方は狭くなっている。あそこはダンプが走る。小学生の自転車が巻き込まれるような気がして心配している。	○市民の皆様には交通指導のほか、学校の保護者の方々には登下校時の安全安心パトロールなどの見守りをしていただいています。子どもが増えている地域もあれば、車の通りが急に多くなる危険な地域もあると思います。そういう情報は市でも把握するように努めていますが、地域の方から教えていただければ、より迅速に対応できます。市民協働課では交通安全対策として、地域の方と話し合いながら独自に注意啓発の看板を作成しています。公園前等の危険箇所への看板設置は、他の地域でも行っていますので、明日以降、必要に応じて現地確認や町内会の役員の方々と話をしながら、対策を協議したいと思います。 ○通学路の安全は学校とPTAから毎年危険箇所を挙げてもらっています。道路の関係はそれぞれ、市、道、国の関係機関、警察、市民協働課、に共有しながら確認して対応しています。地域の方々からも声を上げていただければ、対応を進めることになりますので、お願いしたいと思います。

高齢者福祉

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○健康度が見える化し健康寿命の延伸を図るということで、健康教室の地域開催や、国民健康保険加入者や高齢者への家庭訪問をしてほしい。 ○健康づくりの情報は直接高齢者の耳に入れる機会を作ってほしい。スマートフォンを待っていない高齢者には貸し出すことも考えてほしい。	○健康寿命を延ばし、いつまでも健やかに人生を過ごす期間を長くすることが一番大事だと思っています。昨年から、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に取り組むという形で事業を進めています。例えば、ふれあいサロン事業に保健師が入って健康づくりの指導をするなどの取り組みを進めていこうと考えています。来年度以降は、スマホを活用して散歩するとポイントがたまるとか、持っていない方には専用端末を貸し出して健康づくりを楽しんでもらうような取り組みを検討しているところです。今年度はサロンに通えない状況のため、高齢者の見守りを兼ねて弁当を配布することで、触れ合いや出歩く機会を設ける取り組みを行いました。特定健診は、なかなか受けてくれない人にメールやハガキを送って受診につなげる工夫もしています。検査結果を家庭訪問で伝えることもしています。

公共交通（乗り合いタクシー）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○AI オンデマンド交通のちょい乗りタクシーについて、今後予定される運行エリアを詳しく教えてほしい。	○今回実証実験では駅を中心に半径 1.5km、または 2km の範囲で実施します。その中で様々なデータを取り、実証実験期間中で平均 10 分程度になるのかを検証します。仮にこのエリアで運行したとき、平均 7 分から 8 分程度だった場合は運行可能となりますので、もう少しエリアを広げる検討ができます。他の自治体では 1.5km または 2km で実証実験をしたところ、8 分で運行できたため、半径 2km から 2.5km に広げたという事例もあります。実証実験の中で運行エリアの検証をしていきたいと考えています。今回は 200 名限定ですが、市民に認知されて利用する人が増えていけば、別に北の峰を含めたエリアも可能となり、200 名以上の利用があれば。例えば山部地域や麓郷地域のエリアの中で運行することが可能です。また、エリアの中に住んでいる人だけしか利用できるのではなく、富良野市民であれば誰でも利用できます。例えば山部の方が富良野駅に来て、富良野駅からこのちょい乗りタクシーを使って、西病院や生協まで行くこともできます。北の峰の方が新空知橋を渡って、ホームックあたりに仮想停留所が設置されるので、そこから乗車して協会病院や人材センターに行くという利用も可能です。

公共交通（鉄路）

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○鉄路は廃止させないという大前提を貫いて、国の方針を変えるような行動を起こしてほしい。	○根室線の滝川―富良野間と富良野線が黄色線区で、根室線の富良野―新得間は、赤線区として鉄道以外の運行をするのが望ましいことが示されました。富良野―新得間は、ＪＲ北海道、沿線４市町村、北海道が協議を進めているところです。鉄路を廃止させないことを大前提に根室本線対策協議会でも取り組みを進めてきましたが、根室線の富良野―新得間は、困難な状況にあります。方向性を出す前に住民の皆様に改めて現在の状況を説明したいと思います。 ○ＪＲ北海道が会社だけでは維持存続は困難ということで、当初は上下分離、自治体と負担をしながら続けていくという提案でした。国と北海道に要請してきたのは、民営化の采配を振ったのは国で、ＪＲ北海道は当初から赤字運営が見込まれていて、それに基金を積んで基金運用で赤字を埋めて運営するという国の指導でこういう体制になっているところです。そういう関係から、国が民営化して赤字を埋める方策も金利運用ができなくなってきた状況です。相対的に判断すると、国のやったことでＪＲ北海道が赤字を抱え経営が難しくなっているということですから、これを解決するのは国に支援をしてもらうほかはないと、当初から国に要請しているところです。そして、その答えが３月の法改正で、赤線区に対しての支援は行わないという方向が示されたところです。これをさらに覆して要請できるかとなれば、分社化された九州、四国、北海道、西日本、東日本、東海、貨物の

	7つの経営状況を勘案すると、北海道だけとはならないというのが国の判断だったと思います。地方自治体として鉄路の存続と新しい交通体系の検討に入っていますが、この検討の中に北海道も地方自治体の一つということで、協議の中に入っています。ＪＲ北海道から示されている10億9000万円の負担を北海道で行っていただければ、何とか存続の道が開かれるということから、北海道にも負担の部分について要請をする予定です。この10億9000万円、地方自治体と北海道が分担するとしても、かなり大きな金額です。正式な北海道の回答はありませんが、かなり難しい状況だと思っています。そういう状況を勘案させていただきながら、市民の利便性を損なうことのないよう、ＪＲ北海道もバス転換になったときには、財政支援も予定していることから、そうした支援も受けながら、より良いより充実した公共交通としての代替を受け入れていきたいと考えています。
--	---

農業

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○農業の担い手対策で、第3者継承による新規参入者の支援を検討するとあるが、どのような組織体制で議論されているのか。例えば大学、民間研究機関、民間の有識者など、幅広い見識者で構成しているのか教えてほしい。 ○扇山地区の区画整備について、事業の内容を教えてください。	○富良野市内の農家戸数は540戸程度と非常に少なくなっています。毎年約20戸が離農している状況の中、担い手の育成は急務だと考えています。農業の担い手育成は担い手育成機構が専業農家を育てる取り組みを進めています。組織構成はJAや地域の代表者、農業普及センターなどで、取り組みの方針を決め、山部地域のメロンと東山地域のミニトマトで新規就農する人材を育成しています。これまでの成果は、7組14名が担い手育成機構の研修を受けているところです。新しい研修生を受け入れていくためのPRやUターンの取り込み、第3者継承にも着手しているところです。第3者継承は、10月1日から布礼別の酪農家で受け入れ、そのまま2年後に酪農業を引き継げるよう、研修をスタートしたところです。 ○扇山地区は道営の区画整理事業の排水路の整備です。

【市長 閉会のあいさつ】

限られた時間でしたが、いろいろなご意見をいただき参考にすることができました。ご協力いただいたことに心からお礼を申し上げます。最後に話題になったＡＩを利用した公共交通ですが、実証実験という段階ですが、今後、発展的に拡大していけるか検討していくことになります。ＩＴ、ＡＩ、ＲＰＡ、ＩｏＴの先端技術を活用し、生活の利便性を上げていくというのは様々な分野に対応が可能だと思っています。健康、交通、観光のほか、市が進めているスマート農業はデータを活用しながら魅力ある、そして便利な農業を作っていこうという取り組みです。教育がギガスクールの取り組みをしていますが、活用の仕方を拡大、または充実していく検討が必要だと思っています。いろんな可能性があるデジタルですが、スマートなまちづくりに向けて、努力をしていきたいと考えています。スマートなまちづくりには、市民の皆さんの協力も欠かせませんので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いします。

本日の懇談会は以上で終わりますが、皆様のご意見をお聞きする窓口は常にかいていますので、関係する部局のほか、私のところでも市長室トークがありますので、遠慮なく来ていただければありがたいと思います。本日は大変ありがとうございました。

【参加者アンケートの主なご意見】

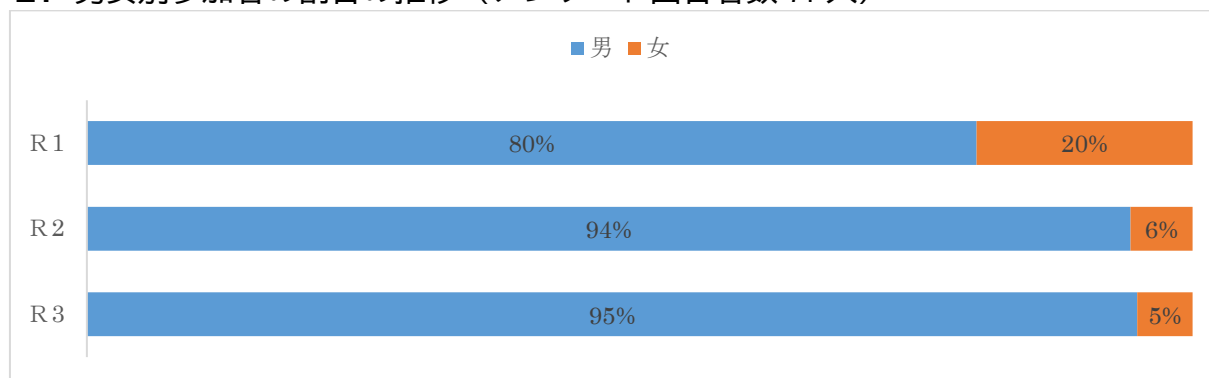
年齢区分	性別	ご意見
50-59 歳	男性	若い世代の声を拾う工夫が必要だと思う

令和3年度「地域懇談会」アンケート集計結果

1. 参加者数

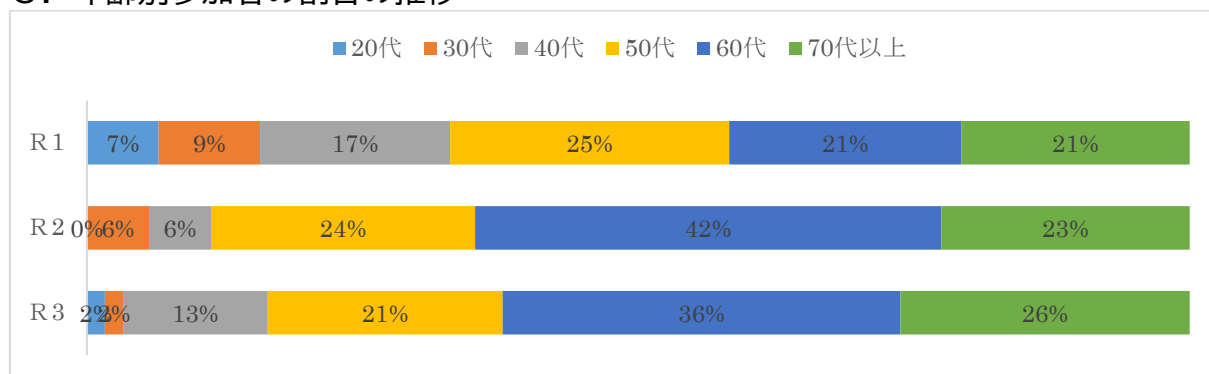
	場所	地区名	H30	R 1	R 2	R3
10/21	文化会館	朝日会館	29	24	20	11
		栄町コミセン	30	33		
		北の峰コミセン	28	26		
		西地区コミセン	56	52		
		末広コミセン	40	42		
10/20	ふれあいセンター	布部会館	23	26	7	7
		鳥沼会館	38	28		
		東春コミセン	29	22		
		南コミセン	51	32		
		瑞穂コミセン	55	21		
		麻町児童センター	27	29		
10/27	山部福祉センター	山部福祉センター	24	22	18	17
10/28	東山支所	東山支所	32	40	24	27
10/26	麓郷集落センター	麓郷集落センター	34	39	10	15
		布礼別集落センター	27	17		
計			523 人	453 人	79 人	77 人

2. 男女別参加者の割合の推移（アンケート回答者数 71 人）



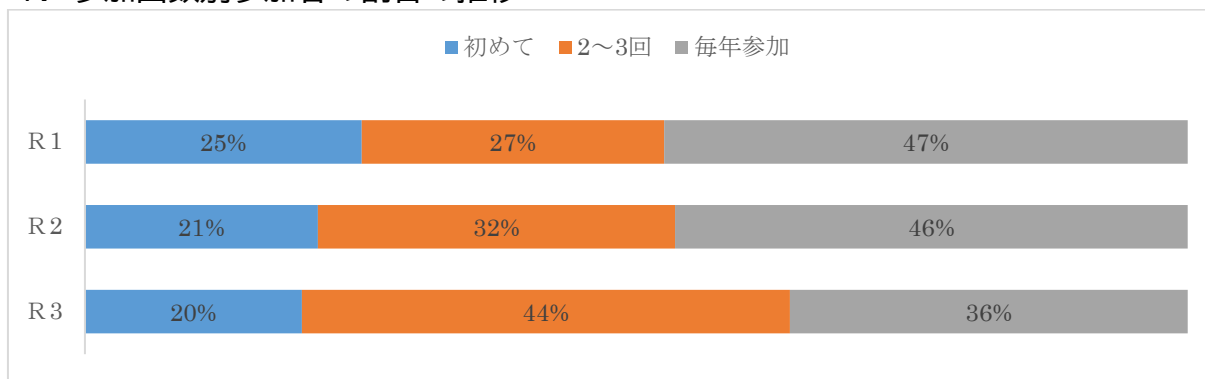
男女比率は昨年度と同程度

3. 年齢別参加者の割合の推移



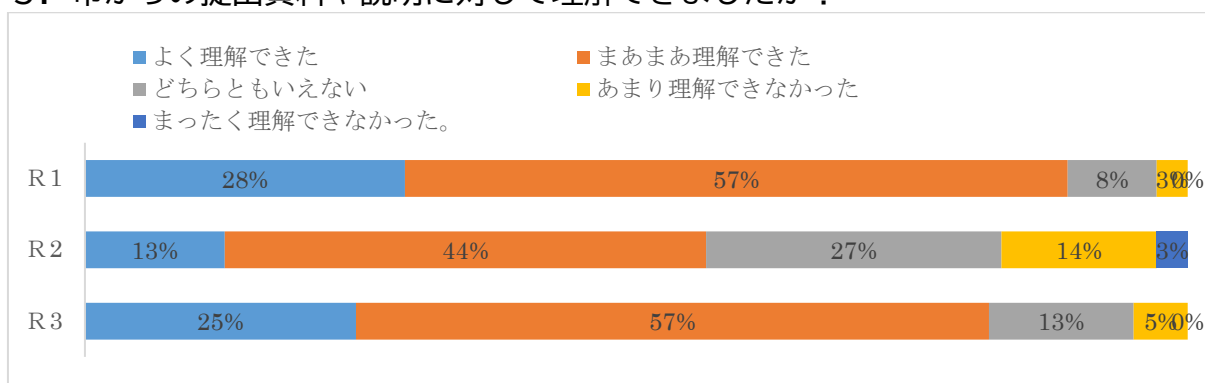
60歳代以上が52%。50歳代の現役世代は48%の割合

4. 参加回数別参加者の割合の推移



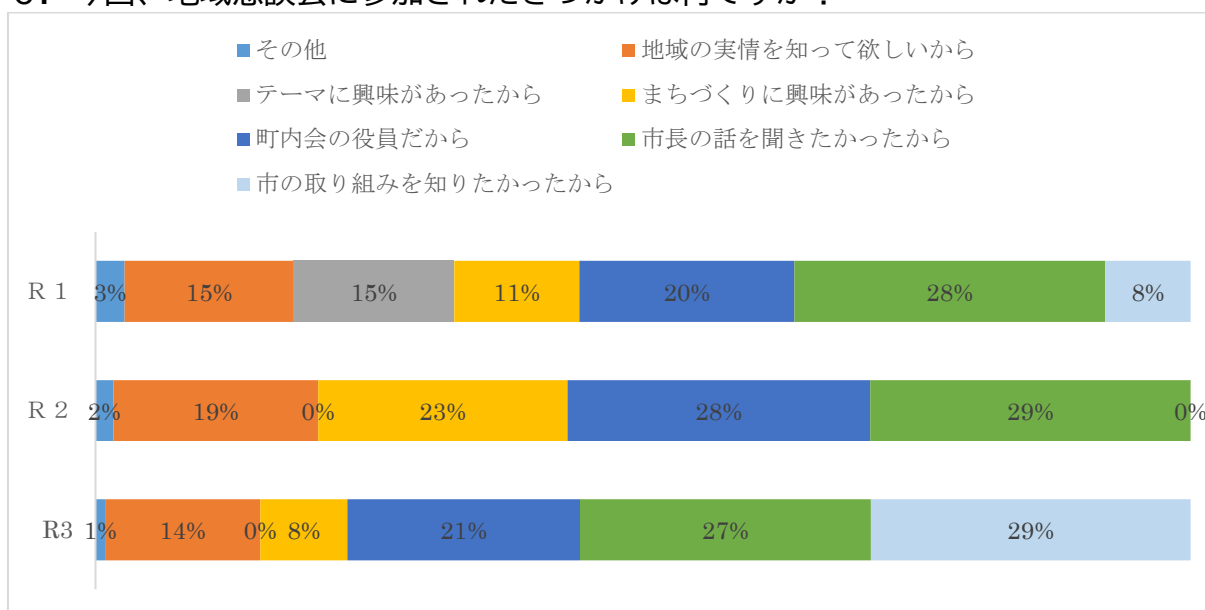
2～3回参加の割合が44%と最も多い

5. 市からの提出資料や説明に対して理解できましたか？



理解できなかった5%に対し、理解できたが82%と高い割合となった

6. 今回、地域懇談会に参加されたきっかけは何ですか？



「市の取り組みを知りたかった」が29%と最も高く、「市長の話を聞きたかった」は27%、「町内会役員」は21%だった。